

【山行報告】

1. 山域・メンバー

期 日：2021-1-31（日曜日）

山域・山名：高島トレール・百里が岳（931m）

山行形態：スノーハイキング（ワカン/スノーシュー）

メンバー：清岡（報告者）、伊藤、宮本、田部

気象状況：曇り時々小雪（推定 1～2℃）

2. 行動記録

学園前（5：30）～宇治田原/南郷/琵琶湖大橋～J R 堅田駅～

朽木麻生・木地山（8：15）/110 km

登山開始（8：37）～百里が岳（12：01/12：11）～下山（14：16）

合計行動時間：5H29 登り：3h 24 下り：2H 5

3. 概要報告

大昔、多分二十年ぐらい前に百里が岳に登ったがすっかり忘れてしまっていた。昨春に登り、登ったような山だと感じて記録を調べてみた。確かに、四名のメンバーと登っている。そして、根来坂峠から元祖鯖街道を降り道の駅で焼き鯖寿司を買って帰ったことも記録にあった。

高島トレールのピークの一つである。この山に惹かれて昨秋整備されたトレールでなく木地山集落の林道ゲートから木地山峠に至る登山道を少し行ったところから、東北東に延びている広い尾根を登った。

ところどころにテープがあるものの、けもの道程度の踏み跡を辿って。里山の自然林の雰囲気、緩急の登り、ブナ林などなどあり、積雪期に登ってみたい山の一つになった。

一月前半は北日本から北陸にかけて大雪があったわりには近郊の山は積雪が例年に比して少ない。丁度、先週末から発達した低気圧や強い冬型の気圧配置で雪のふる予報がでたので、それでは、百里が岳に行こうと急に決まり出かけることとなった。

片道 110 キロ、約三時間掛けて木地山の集落に着く。途中の花折れ峠トンネルを超えると雨脚が強くなってきた。この雨じゃ引き返しになるかも？というところまで全員猛反対。雨でも登る勢いだ。多分、山は雪が舞う天気雨で雨の心配はないだ

ろうとの希望的観測で目的地に。

現地はうっすらとガスが掛り雪が舞っていた。雨対策をして出かける。この木地山集落には十数件の家があるが、廃屋もあったり冬季だけ避難するのか人影は全くなく雪をかぶって静まりかえっていた。

登り始めは10センチ少々積雪。秋に登った尾根に登りだす。時折、風がつよく雪足も強くなる。ジャケットのフードを被り何もつけずにもくもく登るがやがて積雪が深くひだ下ぐらいになり急登に難渋する。

三人はワカンを1人はスノーシューを装着する。一瞬ではあるが青空が見え日の差すこともあったがみぞれ交じりの雪がやまない。

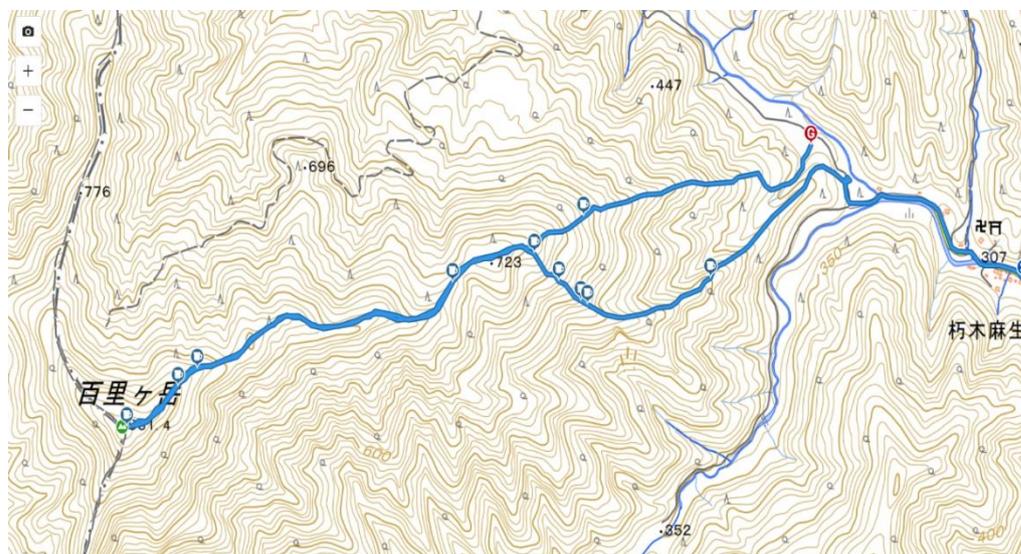
積雪に足を取られたりしながら登る苦労はあるものの雪をまとった静かな樹林帯を進んでいくのは気持ちが晴ればれする。

やがて、「着いたよ」の声で急に頂上の標識板のところにてた。背丈ほどある横に長い標識板の脚が半分ぐらい雪に埋まっている。5~60センチの積雪のようだ。

頂上は風があるので写真撮影して下山にかかる。途中で風を避けて食事をとった後一気に急下降する。

枯葉の上の雪に足を取られて尻もちをついたりしながらであったが十分な雪と戯れた満足のスノーハイクだった。

概略地形



以上

